

# 日本初の大規模思春期コホートによる「思春期学」の創成

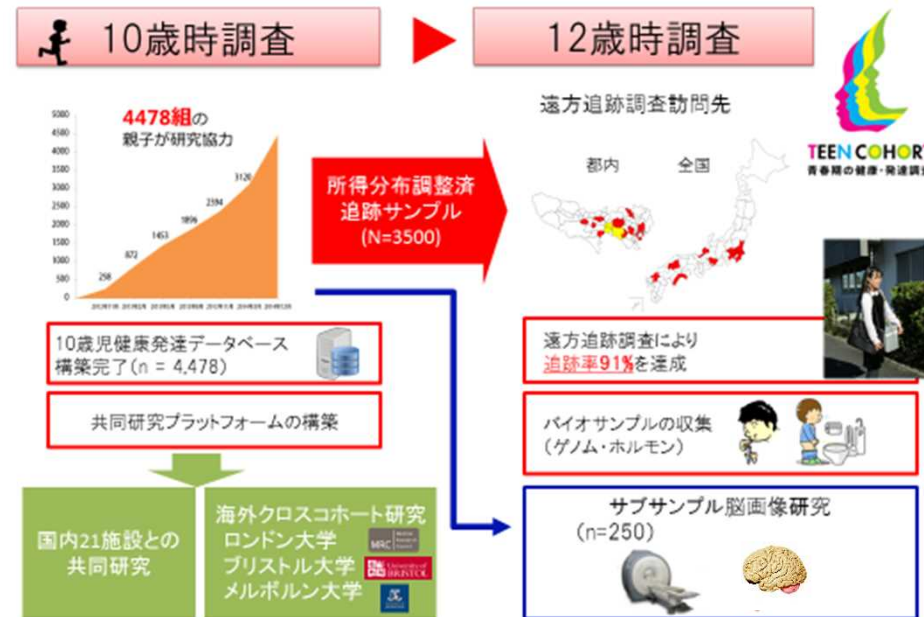
東京大学提供  
作成日 2016年2月16日  
更新日



<b>研究者氏名</b> かさい きよと 笠井 清登	<b>所属機関</b> 東京大学医学系研究科	<b>関連キーワード(複数可)</b> 思春期コホート、自己制御、新聞取材、教科書
<b>主な研究テーマ</b> ・思春期における自己制御発達に関する研究		<b>主な採択課題</b> ・新学術領域研究 平成23～27年度 課題名「精神機能の自己制御理解にもとづく思春期の人間形成支援学」

## ① 科研費による研究成果

- ・本邦初の大規模地域代表標本による思春期コホートを構築。
- ・約4500組の親子が参加、90%超の追跡率を達成。
- ・約1400項目を用い、国内外25以上の共同研究施設との学際研究。
- ・思春期の自己制御発達における言語(文法、語彙)の重要性を解明。



## ② 当初予想していなかった意外な展開

- ・毎日新聞(2015.7.23)含む各紙が日本初の大規模思春期コホートに注目
- ・世田谷区における若者施策への貢献(平成24～27年度)。
- ・本邦初の思春期総合科学の教科書「思春期学」(東京大学出版会、2015)を刊行。

## ③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

- ・思春期コホートを基盤とした社会学・経済学・脳科学・医学・心理学等の融合による国際的な総合人間科学発展への寄与。
- ・思春期コホート研究成果の教育施策・地域施策への還元。
- ・少子高齢化社会における若者の無気力やひきこもり問題の解決に科学的示唆。